

写生地紹介

ハザ木と弥彦山周辺

宇賀治 徹男



▲ 夏井のハザ木 (田植期)

陽当たりを良くするため雪消えの頃、先端の枝打ちを行うため拳のようになるのが特徴で、これが一本一本個性的な表情を見せてくれる。又、風雪に耐えてき

編集部から写生地を紹介するよういわれて、新潟の一般的に知られている写生地は沢山あるがどこが良いかと考えたのである。そんな時、示現会展で内藤先生から「弥彦へ行ってきた。村田さんのハ

ザ木を見たくて」とおっしゃっていたのを思い出したのである。日展・評議員の村田省蔵先生が近年ハザ木の取材に来県されていると聞いている。そんなことからハザ木の里と弥彦山周辺を紹介してみたいと思う。

佐渡弥彦国定公園に指定されている地域で、ハザ木のある平野、山、海と変化に富んでいる。出来れば車で一巡してみたい。

上越新幹線で新潟の一つ手前、燕三条に近づくと車窓左手に二つの峰が相似形のようになった山が見えてくる。右が多宝山、左が弥彦山である。通常、合せて弥彦山と呼んでいる。更に左の低い山が国上山、右が角田山である。この弥彦山周辺が紹介する地域である。

1、ハザ木の里、夏井集落

ハザ木(トネリコ、別名タモ)は米どころ越後平野(蒲原平野)を特徴づけるもので、日本両家・横山操(弥彦の隣、吉田町の出身)の越路十景の中の「蒲原落雁」に見られるように、かつては見渡す限りハザ木が連なっていた。稲作の機械化が進み稲の乾燥も天日乾燥から火力乾燥に変わりハザ木は切り倒された。現在ではここ夏井集落のほか潟東村、新津市などの一部に保存されているに過ぎない。



▲ 夏井のハザ木 (秋)

た力強さを感じさせてくれる。

今では黄金色の稲が屏風のように架かった情景を目にすることは出来ないが、雪、雨、霧の中など四季の移ろいの中で輝きを見せている。落葉した晩秋から早春にかけての情景が好きである。又、田植期の水面に影を落す頃もおもむきがある。

2、弥彦山と間瀬漁港

弥彦山は634mとさしたる高さではないが海岸からの独立峰は蒲原平野のいずこからも望めるシンボルでもある。麓に越後一の宮である弥彦神社があり、県内外の厚い信仰を集めている。鳥居に向って弥彦温泉街が開け、本殿の裏からは



▲ 寺泊から弥彦山

ロープウェイで5分、山上公園に到着する。360度の展望が開け広大な蒲原平野と日本海をへだてて佐渡ヶ島の眺望が楽しめる。

弥彦山の裏側にひなびた間瀬漁港がある。弥彦神社から岩室温泉を経て峠を日本海へ下り越後七浦シーサイドラインを横切ると漁港である。

3、寺泊から弥彦山

漁港からシーサイドラインを寺泊方面へ走る海岸線は変化に富み、海水浴場が点在する。ここからの日本海に沈む夕陽は特に美しい。

信濃川大河津分水を渡ると、寺泊の魚市場通り(魚のアメ横ともいわれる)に



▲ 五合庵

出る。日本海の魚貝類、水産加工品を売る店が軒を連ねている。首都圏からのバスツアーの観光バスで賑わう。市場の前が海浜公園、海水浴場へと続いている。この浜辺は大河津分水から土砂が放出されて出来たもので分水河口から続いている。初夏には可憐な浜登願が咲き乱れ、遠景に弥彦山が望まれる。

4、国上寺と五合庵

分水河口から上流へ1㎞ほど進むと国上山(標高313m)への登山口がある。中腹まで登ると和銅2年(709)創建の真言宗の寺院、国上寺があり県内最古の名刹といわれている。さらに五合庵、乙子神社草庵など数々の遺跡が散在する



▲ 間瀬漁港

ほか酒呑童子などの伝説に富んでいる。五合庵は良寛が玉島(岡山県倉敷市)の円通寺で厳しい修行を終え、各地の名僧を訪ねて研鑽の約20年間住いたところである。五合庵の名は万元上人がこの庵と毎日米5合を給されたことから名づけられたといわれる。

この、ほの暗い森の中にひっそりたらずむ小さな庵を多くの人が描いている。生涯、寺と弟子を持たず托鉢によって生活を送り、自然を愛し、子供らを愛し清水のように生きた良寛をしのびながら写生するのも心が癒されるものと思われる。

